補償光学情報交換会@大阪電気通信大学

赤外天文学で発達した補償光学と高速熱流体の可視化計測研究との融合

2018年9月22日に，大阪府寝屋川市の大阪電気通信大学寝屋川キャンパスにて，補償光学情報交換会が開催され，当研究室の卒研生が口頭発表しました．

補償光学とは，1970年代から赤外線天文学で研究が本格化した研究分野で，星からの光が地球の大気を伝播中に受ける波面の歪みを復元することを目的としています．日本では，国立天文台がハワイのマウナケア山に設置した「すばる天文台」の主鏡に補償光学研究の成果が使われています．

当研究室では，補償光学を流体現象の長距離可視化計測に適用し，実機規模の現象の高精度可視化を実現するための研究をしています．今回の発表では，当研究室の構想を説明し，補償光学の専門家と研究の方向性や実験手法について討論しました．